

# 2020 専門部会の取組



“協働” 研究の成果を日々の実践に生かしましょう！

今年度の専門部会研究の成果の一端を紹介しています。詳しくは、研修センターに保管している各部会のレポート集、部会作成資料、映像データ等をご活用ください。資料の貸し出しも可能です。

各部会の“協働”研究の成果を全会員で共有し、目の前の子どもや課題を意識した日々の実践を語り合いながら、最大限子どもの学びに還元していきましょう！

## 国語(小) …新教材指導案集の作成

今年度は、新学習指導要領が施行され、教科書で扱われる教材が新しくなったので、新教材について市町村ブロックごとに教材研究し、「指導案集」を作成・発行することができました。4年生生物語文「白いぼうし」、2年生説明文「たんぼのちえ」「どうぶつ園のじゅうい」、5年生説明文「固有種が教えてくれること」等の指導案が作成され、今後配付予定です。

協議を少人数で行うことで密になることを避けながら研究を無理なく続けられたこと、また遠出を避けて市町村単位で一つの教材をじっくり研究していただいたことで、研究が深まりました。

また、部会員には年度の早い段階で新しい指導案形式と、改訂された学習用語集を提示し、実践の一助とすることができたと考えています。

## 国語(中) …実践レポート集の作成

今年度は「一人1レポートの提出」を取組の中心としました。「実践を通して研究を深める」ためのレポートとし、過去のレポートからの追実践もコロナ禍における感染症対策を講じた実践についても執筆していただきました。

特にコロナ禍における実践については、部会員が直面している課題であり、主体的・対話的な学習を進める上で欠かせない「話し合い活動の持ち方・進め方」について見識を深めるための部会員の創意工夫や努力がレポートの随所に見られました。

一堂に会しての協議の場は持てませんでしたでしたが、実践レポートの成果を共有することで、さらに実践の深まりが見られるよう期待しています。

## 社会(小) …レポート・実践アイデア集作成

今年度は、市町村で設定した新しい研究計画に基づいて、実践に生かせる資料やアイデアを各部会員にレポートとして執筆いただきました。

具体例としては、「花を育てる農家の仕事(3年)」「北海道の土地はどのように使われているのだろう(4年)」「自然災害にそなえるまちづくり(4年)」「国土の自然とともに生きる(5年)」「武士の政治が始まる(6年)」などの実践報告がされています。

これらの実践では、Xチャート等の思考ツールの活用や、コロナ禍における災害時の対応、また新学習指導要領にある「パフォーマンス評価」についてなど、すぐに実践につながるアイデアが多数掲載されています。是非活用いただければと思います。

## 社会(中) …プロジェクト試案の提示と実践

今年度は、3年継続研究の1年次目として、社会(中)部会で研究内容を実践につなげるための「プロジェクト試案」を作成し、ホームページに公開しています。地理・歴史・公民の3分野の試案について、研究内容を実践につなげていただくようにしています。

地理は「北海道の魅力とは何か」、歴史は「武士の台頭と鎌倉幕府」、公民は「国の政治の仕組み」について、単元を貫く言語活動を適切に設定し、内容や活動に応じて工夫した授業展開を行いながら、主体的に社会に関わる力やコミュニケーション力の育成を図っています。来年度以降の研究につなげるためにも、取組後半の実践では、是非この研究主題を意識して実践を重ねていただきたいと思います。

## 算数 …実践動画集の公開

今年度は、算数部会の役員が中心となって、「問いを生む問題提示や指導過程の工夫改善」、「発想の源を問う場面設定や数学的表現を用いた思考・交流」の2つの具体的な仮説を実践の場でどのように生かすかを提示する「動画集」を作成し、ホームページ上で公開しています。

1年生「どちらがおおい」の実践動画では、スモールステップで問題提示をしながら水の体積を比べていく課題において「あふれる」「まだ入る」等の言葉を引き出し、正しい量感の習得を目指しました。5年生「図形の角を調べよう」では、発言をあえて止めながら、発言の続きを考えさせたり、繰り返させたりして理解を深めました。

実際の授業場面を見ていただきながら、明日からの実践に役立てていただければと思います。

## 数学 …学習資料配付・レポート集作成

今年度は、新学習指導要領に関わる学習資料を配付しました。「主体的に学習に取り組む態度をどのように見取るか」「評価の進め方の例」について記載しています。具体例を交えて記載していますので、参考にいただければと思います。また、「単元計画(デザイン)の作り方」についての資料も作成しました。目指すべき目標(ゴール)への道筋を生徒が主体的に習得するための単元構成について記載しています。

また、「発問の工夫」「学習過程の工夫」に焦点を当てたレポート執筆では、2年生「1次関数」、3年生「2次関数」についてなどのレポートが掲載されています。特に条件を変える発問を意識した「ひろげる活動」の取組が増え、成果が確認できました。

## 理科(小) …実践レポート集作成

今年度は、各市町村の学年部会作成のレポートについて環流し、実践に生かしていただく取組を通して研究を進めました。

3年生「音」、4年生「雨水と地面」、5年生「ふりこ」、6年生「土地のつくり」等の単元についてのレポートが環流されました。特に「子どもの問題解決の力」を高めることを意識した授業づくりの観点から、発問・教材教具の工夫・振り返りの日常化などを一単位時間の中で位置付け、授業づくりの工夫がなされている実践が掲載されています。今後の参考にしていただければと思います。

また感染症対策として、「3密を避けた理科の授業づくり」についても交流しました。特に実験・観察について、明日からの実践に生きる資料としてご活用ください。

## 理科(中) …スライド集の作成

今年度は、「デジタルコンテンツの公開及び運用」を研究の中心に据えて活動しました。スライドは、「授業で活用できるプレゼンテーションデータ」及び「授業で使用する小テストデータ」をテーマに、部会員が作成しています。画像が豊富に用いられており、コンパクトに指導内容がまとめられているので、活用しやすくなっています。また、スライドの効果で変遷の様子や物質の変化の様子が目で見て確認できることから、生徒にもわかりやすい資料となっています。理科(中)部会のホームページにアップされていますので、ご活用ください。部会員以外の方の閲覧については、研修センターにお問い合わせください。

このコンテンツについては、来年度以降も蓄積し、随時活用できるようにしていきます。

## 生活科 …実践資料集の作成

今年度は「実践資料集の作成」という形で研究を進めました。ただ、活動的な学習の制限もあることから、「考えてみたい展開」や「おすすめの単元計画」という観点で資料を作成していただいています。

これまで「春・冬」の実践例が少なかったことから、その時期の実践例の作成を呼びかけました。「わくわくどきどきしょうがっこう(春・1年)」「北風がはこんでくるものはな(冬・2年)」などの実践が集まりました。いずれも、「協働的な場面の設定」「『出会う・向き合う・ふり返る』学習課程」という研究内容にそって授業が展開されています。今後、各学校への資料集の配付も検討していますので、ご活用いただければと思います。

## 音楽 …実践資料集の作成

新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から、音楽科の授業は「歌唱を中心とした実践が難しくなった」一年でした。そんな中で部会員が創意工夫して音楽の授業をどう創ったかを「実践報告」としてあげていただきました。石教研音楽部会のホームページにUPされています。

コロナ禍において、特に歌唱の授業で意識しなければならぬ点、工夫する点、また歌唱以外の鑑賞領域における資料を充実させることなど、アイデアが共有され、明日からの実践に役立てていただくことができるようになっていきます。多くの制約があるコロナ禍ですが、音楽の授業においても工夫をしながら子どもの学びを深めることができます、ということを再認識することができました。

## 図工・美術 …レポート集の作成

今年度はコロナ禍における各校の図工・美術の授業実践や、授業づくりの工夫を、レポート集という形で交流することができました。「ソーシャルディスタンスアート」や「コロナ禍におけるメッセージ」と題したコロナ禍での授業実践のレポートや、感染症対策を講じながらも、子どもたちの思いをくみ取った授業づくりをしている様子が伝わるレポートも多くありました。

レポート集配付後の部会研究アンケートでは、「コロナ禍における実践のレポートが参考になった」「自分でもすぐに実践したい」という声も多数寄せられました。活動が制限された中でも、足を止めることなく活動し、部会員それぞれの研究をすすめて、その成果を共有して次年度につながることができました。

## 保体(小) …実践アイデア集作成

今年度は「運動好きにするためのアイデア集」の作成を中心に取組を進めました。研究主題のうちの「わかる・できる」部分に着目し、児童の苦手な運動やつまずきの背景を把握・分析して、そのための手立てや解決方法を考えてアイデア集としています。技能的な課題や、「どんな力を身に付けさせたいのか」を明確にしたことで、その後の指導計画の立案や課題解明の手立てを具体的に考えることができています。「新体力テストに向けての実践」、「ベースボール型運動の基礎～投・捕・打のポイント」、「器械運動(跳び箱・1年生)の実践」等について掲載されています。すぐに実践できるよう、写真や図解を交えて、指導のポイントが整理されていますので、活用していただければと思います。

## 保体(中) …授業実践レポート集作成

今年度は、各校の環境や生活実態、またコロナ禍という現状をふまえた形で「レポート集の作成」に取り組みました。設定いた研究主題に限定せず、過去の実践を含めて、これまでの実践で効果的だった授業内容、指導方法、練習方法、ワークシート等を集めた「ベスト版」としました。

これらを部会員で共有して、石狩の「財産」としていきます。また、これらの実践を役員で実際に行ってみて、その成果を検証しています。

さらに、新学習指導要領の施行に向けて、理論研修会も開催しました。来年にむけて準備すべきことを整理することができました。

## 技術・家庭 …実践レポート作成

今年度予定されていた「全道技術・家庭科教育研究大会」の学習指導案の作成を行いました。残念ながら授業実施・公開はできませんでしたが、これまでの研究の成果を生かしながら、指導案を作成し部会員で交流することができました。

また、実践レポートも作成しています。コロナ禍の中で活動も制限されていますが、「今の状況でできること」「次年度からの評価方法」という二つのテーマから選択、あるいは両方のテーマについての実践レポートの執筆を行っています。技術では「パーテーションの作成」「足踏みスタンドの作成」、家庭科では「コロナ禍における実践授業」など、今年の状況に応じた実践報告がなされました。

## 英語…実践交流レポート作成・ワークショップ

レポート集の作成を行いました。今年度の実践に限らず、過去の実践も可とし、テーマの指定も行いませんでした。感染症対策の面から、特に対話やコミュニケーション活動が制限される中で、他校でどのように取り組んでいるのかを知ることが意義深かったと感じています。特に文部科学省のYouTube研修動画「なるほど！外国語活動」を活用した実践や、パワーポイントを活用した一斉指導用教材の開発についての報告などが好評でした。

また、取組後半では、各市町村ごとにワークショップを開催しました。第二次研究協議会で一堂に会することができませんでしたが、小規模で「新学習指導要領の実施と評価」をテーマに研修を積むことができたことは、大変有意義でした。

## 養護教諭…ブロック研究・報告集の作成

研究報告集を作成しました。各市町村ブロックの研究や掲示物・保健室便利グッズの紙面交流、感染症対応の交流を行い、日常実践への活用につなげることができました。

このブロック研究は会員一人一人の実践を積み上げた取組であり、市町村ブロックで協議の場を持って成果と課題を整理することができたことは大きな成果です。また、それが紙面交流という形ではあるものの、共有できたことも次年度へとつながる成果だったと考えています。

養護教諭という職務の特性上、感染症対応そのものが日常実践であるとおさえて、次年度へと成果をつなげていきたいと考えています。

## 事務職員…市町村協議・アンケートの実施

新型コロナウイルス感染症の拡大にともなって、新たな実践が困難であると考え、昨年度からの継続研究を基本としながら、市町村の実態に応じて新たな研究の積み上げを行うこととしました。継続研究の内容としては、「財政財務活動の取組」「実務的な取組」の二点を中心に協議を行ってきました。

また管内全体では、実務に関わる取組内容、および新型コロナウイルス感染症に係る各校の取組についてアンケートを実施しました。管内の取組を集約し、コロナ予防のための消耗品・備品の購入品目や金額、学校配分予算以外のPTA会計や各種補助金からの支出状況、3密を回避するための工夫等について情報交流することで、今後の対策に役立て得るものとなりました。

## 障がい児教育…指導案交流・レポート作成

今年度中心サークルとして授業を公開していただく予定だった北広島市の部会員に、実践授業の指導案を公開していただきました。またその指導案についての質問や意見を、役員でとりまとめて指導案作成校とやり取りし、全部会員で回答を交流し合うことができました。

毎年作成をお願いしている部門別レポートでは、「通級児童に対する指導支援について」「コロナ禍における指導内容や指導方法について」「認知について（コグトレ）」「hsp（ハイリー・センシティブ・パーソン）について」などの内容が好評でした。ちょっとした場面でも活用でき、コロナ禍でも実践可能な内容ですので、是非参考にしてください。

## 栄養教諭…実技・理論研修会の実施

10月に実技研修会「日本の文化であるお茶の歴史や効能、美しい淹れ方について」、および理論研修会「災害時における対応と衛生管理・栄養管理について」を実施しました。感染症対策を踏まえ、内容や会場も考慮して開催できたことは、今年度の大きな収穫であると考えます。

実技研修会は、伝統的食文化にふれることができたこと、また小学校家庭科のお茶の実践と関連させた食育の学習のアイデアについて確認できたことが成果となりました。理論研修会については、胆振東部地震の経験を踏まえながら、実際の災害が起きたときの対応や、被害を大きくしないための防護策などについて、部会員で協議し、学びを深めることができました。

石教研ホームページにも、各部会の今年度の研究成果である部会作成資料やレポート一覧等が紹介されています。ぜひ各部会のホームページをご覧ください。

また、部会が作成した資料やレポート集は、研修センターにて保管しています。貸し出しもできますので、ぜひ有効にご活用ください。

来年1月29日発行予定の『石狩の教育』第66集では、各部会の研究成果を掲載します。今後の実践の参考にしてください。

研究成果をもとに、思いを語り合おう

石狩の“協働”研究



…すべては石狩の子どもたちのために！